

つむぐ通信

シリーズ連載 その106

「つむぐ通信」では、地域おこし協力隊員が、月替わりで活動内容やイベントなどのお知らせ、地域おこしに関する企画や提案を紹介していきます。

【江田島市地域おこし協力隊】

国際交流支援員	大方 芳恵
観光事業総合プランナー	山田 京子
オリブブランドクリエイター	鉄増 千夏
里海コーディネーター	向井 綾香

今日は
おおかた よしえ
大方 芳恵 さん

facebookで情報を発信しています

江田島市地域おこし協力隊



啓発セミナー・特別授業等の実施
異文化理解の大切さ、多文化共生について一緒に考えていただくために、自身の海外での体験も紹介しながらセミナーを市内外7会場で行いました。「文化が違うからといって否定せず受け入れていきたい」「思

異文化体験プログラムの実施
ザンビア国籍で音楽好きのパートナー（夫）に協力してもらいながら、こどもたちに楽しく異文化に触れてもらえるプログラムを市内4か所で実施しました。英語の歌で遊んだり、絵本を読んだり、ザンビアと日本の違いを映像で見ながら違いをみつけ、自分たちの「当たり前」が当たり前でないことを発見したり。このような実体験を通して、文化の違いを尊重しながらも柔軟に受け止め、共感や思いやりをもって多様な社会で生きる素地を少しでも身につけてもらえれば嬉しいです。

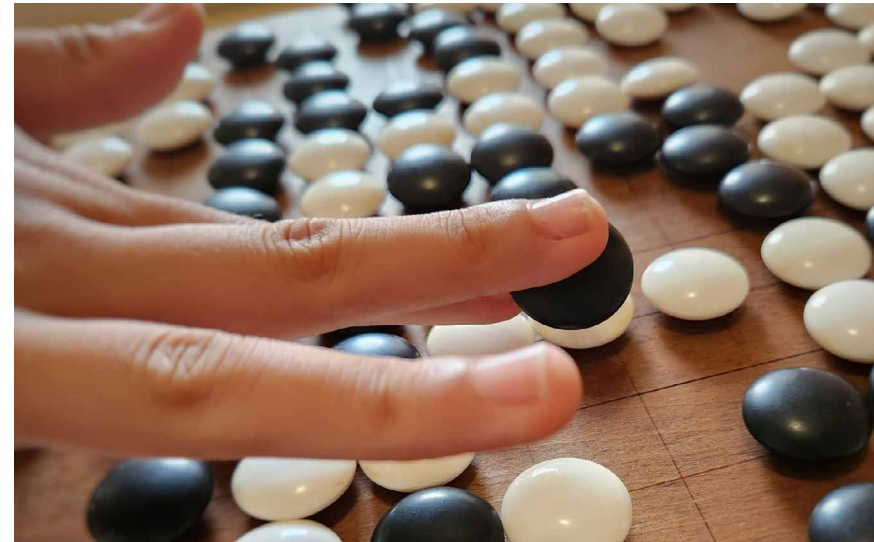
こんにちは、国際交流支援員の方です。年度末に寄稿しておりますので、令和6年度の活動の一部をご紹介させていただきます。たくさんの方々に機会をいただきながら、私の2年目の活動を進めて行くことができましたことを嬉しく思っております（感謝）。

現在、江田島市には約1000人の外国人市民が暮らしています。今後、ますます増加が見込まれ、近い将来には家族帯同で働きにくる方も増え、地域に生活者としての外国人（配偶者、こどもたちなど）が増えることも予想されています。国籍、生活習慣、年齢、文化的背景を越えて、お互いに自分にできることで助け合って、地域で楽しく暮らせる江田島市であるといですね。

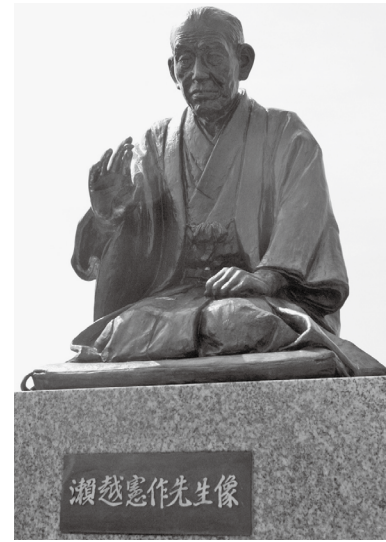
国際ふれあいステージの実施
12月に行われた国際ヒューマンフェスタでは、外国人市民の方々が母国の歌やダンスを披露し、来場者とともに大いに盛り上がりしました。江田島市の活気ある多文化の風を市民の方々に感じていただく機会となりました。私は、裏方として、出演者の調整や準備、当日の司会などを担当しました。とても楽しかったです！



「囲碁の島」 江田島市 ～歴史を未来へつなげる～



瀬越 憲作 名誉九段
(1889～1972年)



古くから囲碁が盛んな江田島市は、「能美に行って碁を打つな。肥桶を担いだ百姓が段を持っている」と言われるほど、囲碁文化が深く根付いている「囲碁の島」です。

この島の囲碁の歴史を語るうえで欠かせないのが、瀬越憲作名誉九段です。戦後の囲碁の再建・普及に大きく貢献し、1958年（昭和33年）には棋士として初めて紫綬褒章を受章。さらに、1966年（昭和41年）には勲二等瑞宝章を受章しました。その功績を讃え、1983年（昭和58年）には故郷・能美町高田の高田港付近に銅像（園鋳勝三作）が建立されています。

瀬越名誉九段以外にも、この島は数多くの著名な棋士を輩出しており、近年では広島県で初めて女流棋士となった大森らん二段が登場するなど、「囲碁の島」としての伝統は今も続いています。

しかし、娯楽の多様化により囲碁に触れる機会が減り、こどもたちや親世代の多くが囲碁のルールを知らない状況が生まれています。それでも、囲碁が持つ奥深い魅力や、世代を超えて楽しめる知的な文化は変わりません。

現在、日本棋院江能支部の方々が、囲碁の魅力を次世代へ伝えようと、こどもたちや親子向けに、AI（人工知能）を活用した無料の囲碁入門指導を計画しています。囲碁は、年齢や言葉の壁を越え、対局を通じた交流が生まれる素晴らしい文化です。

論理的思考力や集中力、判断力、推理力などの知的能力が身につける、「囲碁の島」の歴史を未来へつなげるために、この機会に囲碁に触れてみませんか？



▲日本棋院
囲碁アプリ

親子で囲碁体験（無料）

囲碁は世界最古のゲームです！囲碁をAI（人工知能）で学び、右脳を鍛えよう！ぜひ、親子で囲碁に触れてみませんか？

日時 4月5日(土) 午後1時～午後3時

場所 能美市民センター（2階 会議室3）

主催 日本棋院江能支部 事務局 中下 卓夫

問合せ ☎ 0823-56-1914 宇根本

※囲碁のコレクション展示・一般の方、見学可

